

研究課題	1人1台のiPadを活用した表現力の育成
副題	～もっと知りたい、伝えたい！スリランカの魅力 発信プロジェクト～
キーワード	表現力 プレゼンテーション iPad タブレット 発表 交流
学校/団体名	コロombo日本人学校
所在地	〒00800 No.4, Lake Drive, Sri Jayawardenapura Mawatha, Colombo8, Sri Lanka
ホームページ	http://srilanka.jscol.com/

1. 研究の背景

本校はスリランカの最大都市コロomboにある日本人学校（小学部、中学部併設校。）である。本校では、少人数の特徴を生かし、個に応じた指導を行っている。本校の児童生徒の多くは、普段はリラックスして授業や様々な活動に臨んでいるが、人前で発表する場では緊張してしまい、伝えたいことが思うように伝えられないことが多く、表現力が十分身につけているとは言い難い状況である。また発表準備をしても、本番になるとそれが出し切れず、伝えきれないまま終わってしまうことも多い。文章構成や言葉の選択、絵や写真、グラフの活用など、発表内容についても改善の余地が多く、課題の一つである。そこで、朝の15分の時間に表現力を高める活動を設定し、令和元年度からその時間を「Grow Up Time」と名付け、当番を決めて全校児童生徒の前でプレゼンテーションを行ってきた。その成果もあり、令和2年度頃から児童生徒の発表に少しずつ変化が見られてきた。令和3年度は校費でiPadを購入し、1人1台のiPadを貸与して校内研究を進めたことを契機に、keynoteを使って作成した資料を用いながら発表する活動を進めてきた。分かりやすい発表とはどのような発表かということについてもその都度考えさせてきた。少しずつではあるが、発表に対する自信もついてきた。令和4年度も引き続き、児童生徒の表現力を高めていきたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の3つである。

- ①「Grow Up Time」「他校との交流会」「学校行事等」を通して児童生徒の表現力を高めること。
- ②児童生徒の表現力を高めるためのiPadの効果的な活用法を明らかにすること。
- ③本帰国後、それぞれの教員が学んだことをそれぞれの帰任地で広めたり、新たな実践に発展させたりしていくこと。（本校は特派員として日本各地から派遣された教員で構成されているため）

3. 研究の経過

本研究に関わる主な取組は以下の通りである。

時期	区分	主な取組内容	備考
4月	教員研修	・意識調査の実施（教員・児童生徒）	・アンケート
		・プレゼンテーションについての共通理解	

5月	総合的な学習の時間（情報）	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラアプリ、Keynote等の使い方 ・情報リテラシーについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員も一緒に活動に参加
5月	Grow Up Time	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のテーマについての話し合い ・keynoteスライド作成 ・個人発表タイム① 	
6月	教員研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の進捗状況の確認 ・座談会 ・他校との交流に向けた準備 	
6月	Grow Up Time	<ul style="list-style-type: none"> ・個人発表タイム② ・1学期の個人発表のふり返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・スリランカ情勢悪化のためオンライン授業
7月	教員研修	<ul style="list-style-type: none"> ・意識調査の実施（教員・児童生徒） ・1学期のふり返り ・2学期の取組の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期ふり返り
9月	Grow Up Time	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力を高める活動 ・個人発表のテーマについての話し合い 	
9月	総合的な学習の時間（交流）	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会に向けた準備（内容についての話し合い、役割分担、プレゼンの準備） 	
10月	Grow Up Time	<ul style="list-style-type: none"> ・個人発表タイム③ 	
10月	総合的な学習の時間（交流）	<ul style="list-style-type: none"> ・発表についての振り返り ・反省を次に生かすための活動 	
11月	総合的な学習の時間（交流）	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会に向けた準備（プレゼンの準備、練習、リハーサル等） 	
12月	総合的な学習の時間（交流）	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会（東京都大田区立糎谷小6年生） ・ふり返り ・反省を次に生かすための活動 ・交流会（神奈川県横浜市立旭小4年生） ・ふり返り ・反省を次に生かすための活動 	
12月	教員研修	<ul style="list-style-type: none"> ・意識調査の実施（教員・児童生徒） ・研究全体のふり返り ・研究報告会に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期ふり返り
1月	総合的な学習の時間（交流）	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会（ナイロビ日本人学校） ・ふり返り ・反省を次に生かすための活動 	
1月	教員研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究報告会 ・「研究報告会の記録」の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部への発信
2月	総合的な学習の時間（交流）	<ul style="list-style-type: none"> ・合同授業（ナイロビ日本人学校） ・ふり返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインにより実施
通年		<ul style="list-style-type: none"> ・本校公式ウェブサイト内ブログでの発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部への発信

また、今年度行った校内研究授業の概要は以下の通りである。

時期	学年	教科	活用した ICT 機器やアプリケーション等
6月	小学部6年	国語	iPad、Apple pencil、Jamboard、大型テレビ
6月	小学部5年	音楽	iPad、Grageband、Flat、Jamboard、大型テレビ
10月	中学部3年	社会	iPad、keynote、Pages、大型テレビ
10月	小学部1・2年	生活	iPad、Jamboard、Xmind、Google Earth、大型テレビ
11月	小学部3・4年	国語	iPad、Jamboard、Simple Mind、大型テレビ
1月	小学部5年	理科	iPad、Numbers、Pages、大型テレビ

4. 代表的な実践

(1) Grow Up Time

発表に特化した表現力を高める時間の総称である。令和3年度は教師主導の部分が多かった反省を受け、今年度はテーマ決めをはじめ、発表順、アドバイスタイムなど、子供たち主導で行う場面を増やした。2学期までに11人の子供たちが1人2回、keynote を使いながら発表する機会を設けた。発表して終わりではなく、発表後には全員が発表者に対してスプレッドシート上にコメントを残し、さらなる表現力の向上を目指した。そうすることで、次の発表への意欲付けとなったり、アドバイスによる技能向上ポイントが明らかになったりした。

【第1回個人発表テーマ】

「全学年共通：みんなの知らない〇〇のヒミツ」

- ・1学期ということもあり、自己紹介も含めて、自分のことを知ってもらうことをねらいとした。友達の新たな一面を発見することができたようだった。

◎keynote スライドを操作しながら発表する、基本的な表現力を身につけることができた。



(個人発表の様子)

【第2回個人発表テーマ】

「1～4年生：ここがステキ！スリランカのヒミツ」

「5年生以上：「人との関わりを通して、自分が変わるきっかけとなったこと」

- ・学年の発達段階を考慮し、テーマを変えることにした。5年生以上はパナソニック教育財団のプレゼンテーションコンクールへの応募に向けた校内審査を兼ねた。
- ・1回目の時より分かりやすい発表を目指して、スライドの文字数を減らして強調したり、スライドに効果を挿入したりできるようにした。
- ・1回目にももらったアドバイスを踏まえて考えさせるようにした。

◎児童生徒がどのような技能を習得できているか、また課題となることは何かについて、教員側で把握することができた。

◎一人一人が1回目よりも質の高いスライドを作成できた。教師のサポートをほとんど必

要とせずに自力でスライドを作成することができるようになり、児童生徒にとっての自信につながった。

◎プレゼンテーションコンクールに小学部6年児童1名、中学部3年生徒1名の発表を応募した。このうち小学部6年児童の発表が最終選考に残り奨励賞を受賞した。

(2) 他校との交流会

(1) Grow Up Time で身に付けた表現力を生かす場として設定した。交流を行うにあたり、コロambo日本人学校とスリランカについて紹介する発表タイムを交流の中に組み込んだ。ここでいう他校とは、「スリランカの現地校」「日本の学校」「他の在外教育施設」を指す。昨年度の交流会の経験を活かし、交流会までの計画や発表内容などの話し合い活動や当日の司会進行は教師主導で行うのではなく、児童生徒主導で取り組ませた。話し合いの司会係や話し合いの記録係(JAMboard)を固定化せず、担当を変えて行うようにし、なるべく多くの子供たちが経験できるように工夫した。

○各交流会の概要

【現地校（アショカカレッジ）との交流】：対面交流

本校の校内研究のテーマは「スリランカの魅力を伝える」だが、現地校に向けた発表となるので、「日本の魅力を伝える」ことをテーマとし、スリランカの人たちに向けて日本の魅力を紹介するプレゼンを行った。当日は大きなホールで約100人以上のスリランカの子供たちを目の前にしても物怖じせず、堂々と発表していた。



(現地校との交流での発表の様子)

【日本の学校（大田区立糞谷小学校・横浜市立旭小学校）との交流】：オンライン交流

日本の学校との交流では、スリランカの魅力を伝えるために、どのようなトピック(項目)にするかを児童生徒が中心に話し合った。1人1つのトピックを担当し、魅力を伝えるプレゼンをするとともに、相手校の地域にも興味をもつために事前に調べ学習をした。発表以外にも、相手校の地域について調べたことについてのビンゴゲームをしたり、お互いの合唱を聞き合ったりする等の活動をした。

【他の在外教育施設（ナイロビ日本人学校）との交流】：オンライン交流

1月と2月に分けて2回行った。1月は日本の学校との交流と同じように、スリランカの魅力を伝える発表を行った。日本の学校の際の発表で見た課題を修正したり、相手(対象学年)が変わることによる適切な言葉を選び直したりして発表に臨んだ。2月は学年ごとに分かれて合同授業を行った。

（３）校内研究授業

教科横断的な取り組みとなるように、（１）（２）で身にせるように、ICT 機器を活用した表現力の育成方法について授業を行う機会を設けた。テーマは主題「１人１台の iPad を活用した表現力の育成」に沿って、他教科での実践をすることとした。授業だけでなく、事前検討会と事後検討会もセットで設定した。事前検討会では、授業で使う様々な ICT ツールやアプリケーションを紹介した。事後検討会では実際の授業を参観した上で、その効果や課題等について話し合った。先生方の ICT 活用に関する引き出しが増え、他教科でも積極的に使っていこうという意欲につながったり、他の実践を試したいという意欲につながったりした。



（４）学校行事等との関連

（１）～（３）でつけた表現力をさらに伸ばせるような場を設定した。学習発表会のような意味合いで行われる JSC フェスティバルでは、JSC プレゼンという演目を作り、今までつけてきた表現力をお披露目した。終業式・修了式では、児童生徒が頑張ったことや成長したことなどをスライドを用いて発表する時間を設けた。スリランカの伝統的舞踊であるキャンディアンダンスを発表した際にも、ダンスを発表するだけでなく、キャンディアンダンスの歴史やクイズ等を発表した。



このように学校行事のあらゆる発表の機会とタイアップして、本研究で身に付けたプレゼン能力を意識的に発揮する場面を設定することができた。

５．研究の成果（発表に関するアンケート結果から）

○児童生徒及び教員に対し、各学期のはじめと終わりに同一項目のアンケートを行い、考察をした。その結果から以下のような成果が見られた。

【児童生徒】

- ・学校で足並みをそろえながら指導したことで、発表（プレゼン）に関する知識や技術などのポイントを一人一人が習得でき、表現力を高めることができた。
- ・お互いの発表を見る機会が多かったため、刺激を与えたり受けたりしながら、全体のスキルアップができた。
- ・人前で話す機会が増えたことで、発表に対する抵抗感がなくなり、今までよりも発表に自信をもつことができた。
- ・他校との交流をとおして、発表をする楽しさに加え、相手校の発表を聞く楽しさにも触れる

ことができた。スリランカの魅力を伝えたいという想いと共に、相手のことを知りたいという想いが生まれ、思ってもいなかった副産物が得られた。

【教員】

- ・他の教員の研究授業で見ることにより、ICT活用の具体的な方法が分かり、それらを自分でも実践してみようとしたり、新たなアイデアを試そうとしたりして、ICT活用の引き出しが増えた。
- ・表現力という抽象的なイメージを具体化して評価の観点を明らかにしたことで、教員が「表現力のある発表」について、共通理解を図ることができた。
- ・子供たち一人一人の発表を共通した視点で評価することで、さらにレベルアップするために必要なスキルについての的確な指導ができるようになった。

6. 今後の課題・展望

【児童生徒の課題】

- ・発表したことで満足してしまうところが見られた。その後の学びにもつなげていくことができるように児童生徒を促していく必要がある。
- ・表現力のある児童生徒同士の学び合いや高め合いの機会を増やし、さらなるレベルアップを目指していくこと。
- ・表現力の向上について一定の成果は見られたものの、思考力・判断力と一体となったものまでにはなっていないこと

【教員の課題】

- ・表現力の高い児童生徒に対して、さらにその力を高めていく指導を行っていくこと。
- ・新たに転入学してきた児童生徒に対する指導やフォロー体制を確立すること。
- ・教育課程全体を見て、バランスよく適切な時間を配当していくこと。

【今後の展望】

- ・2年計画で進めてきたが、来年度も「表現力の育成」について、計画的に研究を進める。
- ・iPadを中心として、汎用性のある知識・技能を身に付けるように意識して研究を進める。
- ・表現力を裏付ける「思考力」の向上にも重点を置いて研究を進める。

7. おわりに

昨年度に引き続き、今年度もパナソニック教育財団の教育実践助成校に認定いただき、2年間を通して、充実した研究活動を進めることができた。今年度の研究の成果と課題を踏まえ、来年度も教職員一丸となってさらに研究を発展させていく。この場を借りて、パナソニック教育財団の方々や、研究報告会において2年連続で講師を引き受けてくださった金城学院大学の長谷川先生等、様々な方々からの多大なるご支援に深く感謝申し上げたい。